

第3回再犯防止・被害者保護研修 「DVの予防・対応の効果的方策」

1 日程及び参加者

- 令和6年3月5日（火）から同月14日（木）まで
- 海外参加者7名（7か国から参加）
- 国内参加者4名

2 研修概要

本研修では、DVの予防・対応の効果的方策を主要課題とし、とりわけ、コロナ禍による影響を踏まえた最近のDV事案の国際的動向を念頭に置きつつ、各国におけるDV被害者に対する支援や二次被害防止の取組、DV加害者に対する効果的な処遇等に関する各国の有用な制度やその実務的運用、ベストプラクティス等の情報や経験を、個人発表や講義等を通じて共有することにより、各国の制度や実務の改善につなげるとともに、研修参加者の相互理解を促進し、各国の実務改善のための継続的な情報交換に向けたネットワークを構築することを目的とするものでした。

3 研修の内容

(1) 講義

本研修においては、国連アジア極東犯罪防止研修所教官による講義のほか、以下の客員専門家・国内講師による講義も行い、各講義の後に質疑応答の機会を設けました。

いずれの講師に対しても、研修参加者から活発な質問がありました。

【海外客員専門家】

- フランシス・ゴードン 氏
国際司法コンサルタント（元刑事法改革及び刑事司法政策国際センター（ICCLR）所長）
- アイリーン・スキニダー 氏
刑事法改革及び刑事司法政策国際センター（ICCLR）シニア・アソシエイト
「近時のDV事案の諸課題及びその効果的方策」
- スチュアート・ロス 博士
メルボルン大学社会政治科学科教授
「DV予防・対応のための加害者処遇」

【外部講師】

- 菊池 安希子 氏 武蔵野大学人間科学部教授
「DV被害者心理について」
- 上宮 愛 氏 金沢大学人間社会研究域人間科学系講師
「司法面接について」
- 富田 さとこ 氏 日本司法支援センター本部国際室長／弁護士

「日本司法支援センターによる DV 被害者支援」

(2) 個人発表

研修参加者による各国の実務や課題に関する個人発表を行いました。各発表に対して、研修参加者から積極的な質疑応答が展開され、他国の制度に対する強い関心がうかがわれました。

(3) 施設見学

東京都女性相談センター多摩支所及び社会福祉法人救世軍社会事業団を訪問し、DV 被害者に対する相談業務や一時保護等の説明を受けるとともに、被害者が入所する施設の見学をし、それぞれの施設における被害者保護の取組等の実務を学ぶことができました。

(4) アクションプラン作成・発表

研修員は、個人発表や講義等の結果を踏まえて、DV 被害者に対する支援や二次被害防止の取組、DV 加害者に対する効果的な処遇等に関する課題の特定とその対応策をまとめたアクションプランを作成し、所長、当研修所教官を含めた参加者全員の前で発表し、研修の総括とした。

4 研修参加者からのフィードバック等

研修参加者からは、個人発表や講義、施設見学を通じて、DV 被害者に対する支援や二次被害防止の取組、DV 加害者に対する効果的な処遇等に関する事項を網羅的に学べた有意義な研修であったとの、肯定的な意見が多く寄せられた一方で、約 2 週間という短い期間でもあったため研修員同士の議論の時間が十分に取れなかったという意見もありました。引き続き、研修員のニーズを酌みつつ、プログラムの改善に努めたいと思います。

5 担当教官の所感

DV 事案では、とりわけ、被害者保護及び二次被害防止の観点から、関係機関の連携による効果的な支援体制の構築や DV 被害者の心情・境遇・ニーズに配慮した適切な対応が求められております。

本研修を通じて、各国でも日本と同様に DV 事案が国家的な重要課題として位置づけられている現状が明らかになり、また、各国それぞれが、自国の現状を見直し、解決すべき問題を明らかにし、刑事司法分野のみならず、保健、医療、教育、社会福祉等の関連機関の知見を結集し、さらには地域社会とも協力しながら、その対策に取り組んでいるという実情や経験が共有されました。さらには、本研修では、DV 被害者のトラウマ等のメカニズム、司法面接の活用といった、研修員にとって通常の業務では得がたい内容も含まれていたことから、研修員の関心も高く、積極的な質疑応答や討議につながりましたし、一方で担当教官としても学びが多くありました。

本研修で得られた知見を、各研修員の自国制度の発展・充実化に活用してもらえれば幸甚です。

以 上